

C-74 日本人青年女子の肌色の季節の変化について 才8報 山形地区女子中学生の色調
東京家政大家政 木曾山かね 山形大教育 O小関きみ

目的 本研究は、皮膚の色調と衣服の色との関係を考えるための、系統的な基礎資料を得る目的の基礎実験研究である。才25回総会に、山形地区の大学生と高校生の色調について報告したが、今回は、青年に移行する時代の初めである中学時代の色調は大学生や高校生ともやや異なっていると考えられるので、四季の色調について測定し考察検討を行なった。

方法 測定は視感測定法で行なった。測定時期は、春は1974年4月初旬、室温16℃湿度65%、夏は1974年5月下旬、室温23.3℃湿度65%内外、秋は1973年10月中旬、室温16℃湿度65%、冬は1973年12月中旬、室温12.5℃湿度48%。皮膚面の照度は、450 Lux内外であった。被験者は山形地区の中学生で、年令と人員の割合は12才24名、13才75名の計99名である。被験者は化粧をしない健康な皮膚を条件とし、その着衣状況は、春秋と冬は長袖、夏期は半袖で、紛明の状況は種々であった。又家庭の職業は、農業1%その他は工業、商業44.4%、会社員、公務員44.5%、その他6.1%であった。

結果 山形地区の中学生女子の色調は、同地区大学生の色調の傾向と近似していて、オレンゲ系統の5.0YRに色調の大半が集中している。各部位とも夏または秋に2.5YRがみられるが、この出現率は中学生が高く、5.0YRの $\frac{8}{5}$ 、 $\frac{8}{5.5}$ など彩度が低く明度の非常に高い色調は、中学生は少なく大学生が高い。冬期になると赤味の多い5.0YR $\frac{7.5}{4}$ などの色群に、50~70%が集中すると：うなど同様の傾向が示されている。